

# 「日本における公衆衛生の歩みと今後の展望」

北川 定 謙

## 1. はじめに

## 2. 公衆衛生の概念と用語

- ① 『大日本私立衛生会誌』（長与専斎）（明治16年・1883）
- ② 戦後アメリカの影響（昭和20年・1945）

## 3. 公衆衛生発展の流れ

- ① 厚生省誕生以前（内務省衛生局時代）（昭和13年以前・1938）
- ② 厚生省誕生（昭和13年・1938）；旧保健所法（保健指導中心）
- ③ 第2次世界大戦（太平洋戦争）
- ④ 終戦（昭和20年・1945）
- ⑤ 新保健所法（昭和22年・1947）；保健指導と衛生行政
- ⑥ その後の社会環境の変化
  - i) 予算の上から国の補助金の後退と地方自治の発展  
⇒ 健康問題にどんな影響があるか
- ⑦ 国民の健康づくり計画（運動）（昭和53年・1978）
  - i) 市町村機能の強化 ⇒ 保健師の配置と保健センター
  - ii) 普及啓発
  - iii) 生涯にわたる健康づくり
- ⑧ 老人保健法（昭和57年・1982）
- ⑨ 医療計画の法制化（昭和60年・1985）
- ⑩ 保健所法から地域保健法へ（平成6年・1994）
- ⑪ 介護保険制度（平成9年・1997）
- ⑫ 健康増進法（平成14年・2002）
- ⑬ 医療制度改革（平成18年・2006）
- ⑭ 健康危機管理

#### 4. 社会構造の変化をどうとらえるか

- ① 多様化
- ② 個別化
- ③ コミュニティーの崩壊（または弱体化）
- ④ 専門機能の発達 ⇒ **病院・診療所の時代** → 老人関係施設，専門医療施設，  
地域ケア機能（訪問看護など）
- ⑤ 少子高齢化 ⇒ 財政上の問題（年金），老人をサポートする人手の不足

#### 5. 保健所

- ① 従来；保健と環境の一体化 ⇒ 複雑高度化により保健所では対応できない？
- ② 今日；保健機能と老人・その他の福祉機能との接近  
集約化；【約800か所 → 約500か所】  
名称；保健所 → 保健福祉事務所など
- ③ **保健所の理念**
  - i) 地域全体の課題を客観的にとらえる ⇒ 地域保健診断，地区診断
  - ii) 地域組織の育成（母子愛育会，食生活改善グループ，地区衛生組織 等々）
  - iii) 健康増進・確保
  - iv) 保健師（婦）の家庭訪問 ⇒ 地域に入り込む

#### 6. 課題

- ① 広域的な連携システム
  - i) 個人（患者）の需要 ⇒ 健康管理，適切な医療機関，  
サービス（訪問看護・介護）
  - ii) 各種専門機能（機関） ⇒ 全国または地域レベルで均質な配置・連携

#### 7. 具体的に何をするか

- ① 地域の課題の発掘と対応
- ② ○○計画
  - i) 医療計画 ⇒ 義務的→病床計画（規制），任意的→連携（ソフト）
  - ii) 保健医療計画
  - iii) 老人保健計画